

おしゃべりひめは、もう
がまんしきれなくなっ
て、ふきだしました。「お
ほほ。ああ、おかしい、
おかしい。なんておかし
いことばでしょう」おし
ゃべりひめが、こういい
ますと、かえるたちは、
びっくりしたらしくみん
な、かおをみあわせまし
たが、やがてまた、まえ
よりも、いっそうはげし
く、おしゃべりひめにし

やべりかけました。「ぐる、ぐる」「くろ、くろ、ぷりい、ぷりい」と、いいながら、われもわれもと、おしゃべりひめをのぞきこみます。「はははあたしのかおが、なんでそんなにめずらしいの。めだまばかり、きよろきよろさせて」「つららろつららろ」「ははは。ほほほ。あたし、いやよ、そんなに、のぞいちゃ。

あれ、つめたい。きもちのわるい。さわっちゃいけない。きたならしいじゃないの」「だれいけ、だれいけ」「ころろ、げろろ」と、いううちに、あとからあとから、のぞきこんでできます。しまいには、うえからうえに、かさなりあって、ひめのべっどのうえまで、とびあがってきて、われもわれもと、しゃべります。

おしゃべりひめは、これは
はたまらぬと、はねおき
て、いりぐちから、にげ
だそうとしましたが、か
んごふのあおがえるが、
りょうほうから、かじり
ついて、は